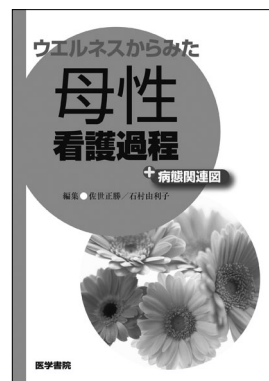


『ウエルネスからみた
母性看護過程＋病態関連図』学生を“ウエルネスに基づく”
看護診断に導くために

編集：佐世正勝，石村由利子／定価：3,990 円（本体 3,800 円＋税 5%）
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



看護学生の多くが，母性看護学の看護過程の展開を苦手としている。その理由は，「看護問題がみつからないから」「何を問題としてよいかわからないから」である。たしかに，他の看護領域では，受け持ち患者に何らかの訴えがあるので，看護問題とすべき現象を見つけることが比較的容易かもしれない。それに対して，正常経過の妊娠褥婦を受け持つ母性看護学の実習では，ケアの対象は基本的に健康である。そのため，極端な場合，学生が何も気づかず，何の看護を提供できなくても，母子は元気に退院していくこともありうる。

「正常であること」「健康であること」を診断するためには，起こりうる異常や疾患を予測し，それらすべてを否定しなければならない。学生は，ヒントとなる訴えのない状態から，これまでの学習に基づく知識を駆使し，起こりうる異常を予測し，異常があった場合に認められる兆候を観察項目として挙げなければならない。これが，母性看護学の実習で学生がつまずく「経過の予測」である。起こりうる異常を予測して観察するためには，十分な知識と正常と異常との判断基準を理解していなければならない。そのため，学生にとって，母性看護学は「とにかく覚えなければならないことが多い」科目であり，それゆえに「母性看護学は苦手」となるようだ。

そこで，本書である。本書は，周産期の専門

医と看護学の教員のコラボレーションによって生まれている。本書のボリュームは索引を入れて903 ページもある。学生は厚い本を嫌う。しかし，本書はカラーの図版が多く，単元ごとの構成が，正常経過解説，アセスメント解説，疾患解説，看護過程解説と統一され，非常にわかりやすい。疾患解説では，学生が苦手とする治療薬についても表にまとめられ，治療の流れもフローチャートとして提示されている。看護過程解説も，看護過程のステップごとに詳細な解説がされ，最後に学生が実習で一番頭を悩ます「病態関連図」も提示されている。本書を手にした学生は，実習初日に「看護問題リスト」と「介入のポイントと根拠」をみれば，“とりあえず，初期計画は何とかなりそう”と感じられるはずである。

本書は，このように，学生がつまずきやすい母性看護学のウエルネスに基づく看護診断を行うための大きな助けとなる。しかし，一つ疑問に感じたことがある。それは，本書が母性看護学の看護過程を学ぶ初学者を対象としながら，記載された周産期の専門医による解説が非常に詳細で高度な点である。あまりに詳しすぎる解説は，初学者をかえって混乱させる場合がある。本書を，学生に紹介する際，その点に教員が気をつけて，指導することが必要だろう。